

資料3

地域研修の 実施状況

1. 各地域の検討・実施状況

各地域の検討・実施状況一覧

■ :実施済

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
応募団体	富山県	茨城県	山梨県	新潟県	静岡県	奈良県	熊本県	和歌山県	福島県	長崎県	京都府	山形県	徳島県	石川県	高知県	愛知県	
地域	⑥北陸	④関東	③甲信越	③甲信越	⑤東海	⑦近畿	⑩九州・沖縄	⑦近畿	②東北	⑩九州・沖縄	⑦近畿	②東北	⑨四国	⑥北陸	⑨四国	⑤東海	
R7希望テーマ	応援・受援	避難所開設・運営	避難所開設・運営	生活再建支援	被災者支援	災対本部運営	物資調達・輸送	応援・受援	応援・受援	応援・受援	応援・受援	災対本部運営	災対本部運営	応援・受援	防災全般(応援・受援)	物資調達・輸送	
事前説明会	3/13 (全地域合同で実施)																
地域検討会第1回	4/15 (火)	3/27 (木)	4/16 (水)	4/16 (水)	4/18 (金)	4/23 (水)	4/22 (火)	4/30 (水)	5/19 (月)	6/3 (火)	6/16 (月)	7/1 (火)	7/22 (火)	8/4 (月)	9/4 (木)	9/12 (金)	
地域検討会第2回	4/30 (水)	4/11 (金)	4/30 (水)	4/30 (水)	5/7 (水)	5/9 (金)	5/12 (月)	5/21 (水)	6/2 (月)	6/27 (金)	7/10 (木)	7/30 (木)	8/8 (金)	9/8 (月)	9/22 (月)	9/29 (水)	
座学 演習	実施時期	5/1 ~ 5/29	5/19 ~ 6/12	5/28 ~ 6/25	6/13 ~ 7/9	9/1 ~ 9/29	6/24 ~ 7/23	7/3 ~ 7/29	7/7 ~ 8/5	7/24 ~ 8/21	8/12 ~ 9/10	8/27 ~ 9/24	9/17 ~ 10/5	10/9 ~ 11/5	10/27 ~ 11/24	11/20 ~ 12/18	11/20 ~ 12/22
	開催形式	集合	集合	集合	集合/ WEB	集合	集合	集合/ WEB	集合	集合/ WEB	集合	集合	集合	集合	集合	集合	集合/ WEB
実施日	5/30 (金) 終日	6/13 (金) 終日	6/26 (木) 終日	7/10 (木) 午後	9/30 (火) ※延期	7/24 (木) 終日	7/30 (水) 終日	8/6 (水) 終日	8/22 (金) 終日	9/11 (木) 終日	9/25 (木) 終日	10/6 (月) 終日	11/6 (木) 終日	11/25 (火) 終日	12/19 (金) 終日	12/23 (火) 終日	
地域検討会第3回	6/6 (金)	6/20 (金)	6/26 (木)	7/10 (木)	9/30 (火)	7/24 (木)	7/30 (水)	8/7 (木)	8/22 (金)	9/18 (木)	9/25 (木)	10月上旬	11/7 (金)	11/26 (水)	12/24 (水)	12/23 (火)	
主な対象者	富山、石川、福井の県・市町村	市町村防災(県はオブザーバ参加)	県・市町村防災	県・市町村	県・市町村	県・市町村防災	市町村物資	県・市町村防災	県・市町村	県・市町村	京都、大阪の府・市町村	県・市町村	県・市町村防災・福祉	県・市町村、指定公	県・市町村	県・市町村防災	
受講者数(うち市区町村職員)	76人(24人)※1	63人(63人)	52人(35人)	58人(48人)	22人(11人)	67人(34人)	48人(48人)	64人(26人)※2	42人(32人)	31人(24人)	31人(15人)※3	44人(38人)	50人予定	60人予定	60人予定	60人予定	
担当コーディネーター	井ノ口	黒田(稲垣)	田村	佐藤和(田村)	小山	井ノ口	国崎	越山	佐藤翔(丸谷)	国崎	木村	田村	紅谷	大原	鍵屋	小山	
地域研修実施年度	なし	なし	R2	なし	R1	R1・3・4・5・6	R1	なし	R3	なし	なし	なし	R5・6	なし	R4	R6	

※1：富山開催は石川県・福井県も参加。()は富山県内の参加市町村の職員数を掲載。

※2：国の機関として、自衛隊、海上保安庁も参加。

※3：京都開催は京都府のほかに関西広域連合(兵庫県、大阪府、堺市)も参加。()には京都府内の参加市町村のみの職員数を掲載。

研修のテーマ 避難所開設・運営

オンデマンド講義：5/28（水）～ 6/25（水） 演習：6/26（木） 集合形式 コーディネーター：田村委員

避難所開設・運営のカリキュラム（案）を基に、
県の要望に合わせて次の点を変更した。

●：受講必須 ◇：受講任意

No.1～No.9
避難所開設・運営のカリキュラム（案）を採用

No.10
受講必須を受講任意に変更

No.11
演習当日に対面で講義することとなったため、
オンデマンド講義から除外

概要	単元名/講師			時間
災害対応業務全般				
	1	防災行政概要	内閣府	◇ 20分
	2	災害法体系と災害対策基本法の概要	内閣府	◇ 15分
	3	災害救助法の概要	内閣府	◇ 15分
	4	防災計画の概要	内閣府	◇ 15分
避難所開設・運営				
	5	避難所の開設・運営の内容	内閣府	● 15分
	6	多様な主体による避難所運営	内閣府	● 15分
	7	災害時における男女共同参画の 視点からの取組の概要	内閣府	● 15分
	8	避難所運営等 避難生活支援	新潟大学 田村圭子教授 ひょうご震災記念 21世紀研究機構 山本晋吾管理部次長	● 30分
	9	避難所運営の実際	危機管理教育研究所 国崎信江氏	● 60分
	10	要配慮者をはじめとする避難者の 避難生活支援	跡見学園女子大学 鍵屋一教授	◇ 50分
除外した単元	11	地域の災害特性	甲府地方気象台	● 60分

研修のテーマ 避難所開設・運営

オンデマンド講義：5/28（水）～6/25（水） 演習：6/26（木） 集合形式 コーディネーター：田村委員

演習カリキュラムの検討

県からの次の要望を踏まえ、カリキュラムを検討した。

- ・研修を通じて避難所担当職員が避難所の開設および初動対応を理解し、適切な対応ができるようになること

地元気象台より山梨県の災害の特徴等を学ぶ

地方気象台の講義やハザードマップ等から避難所の被害を想定する方法を学ぶ

実際の避難所設営業務へ内閣府のガイドラインの役立て方を学ぶ

実際に施設を確認し、初見の施設でも避難所設営を行う方法を学ぶ

避難所の開設から撤収期までをフェーズに分けて実施する。フェーズごとに過去災害の避難所の実際を学んだうえで、課題と対応検討を行い、状況に応じた対応、避難所運営時のポイントや留意点を学ぶ

本日の演習をふりかえり各班に発表してもらうことでお互いの気づきを共有し、理解を深める

時間	単元	時間	講師	単元の概要
10:00 ～10:10	- 朝インテーク	10分	(事務局)	
10:10 ～10:40	1 【講演】山梨県特有の災害の課題	30分	甲府 地方気象台	地元気象台の立場から山梨県の地域特性による災害の特徴、気を付けるべき課題等を学ぶ。
10:40 ～11:05	2 【演習+講義】本避難所に想定される災害	25分	新潟大学 田村圭子 教授	ハザードマップ等を活用し、避難所の想定被害を考える。
11:05 ～11:15	- 休憩	10分		
11:15 ～11:30	3 【講義】避難所運営業務と避難所設営	15分	新潟大学 田村圭子 教授	内閣府のガイドラインを元に避難所設営業務を確認し、実際の避難所設営にどう役立てるかのヒントを得る。
11:30 ～12:00	4 【見学】避難所想定施設の調査	30分	山梨県	本日演習で活用する施設の事前確認を行いながら、初見の施設でも円滑な避難所設営が可能となる能力を身に着ける。
12:00 ～13:00	- 昼休み	60分		
13:00 ～16:00	5 【演習】避難所開設・受入れ演習	180分	新潟大学 田村圭子 教授	想定される避難者の状況に応じた避難所のレイアウトや避難所撤収期までの各フェーズにおける課題への対応を検討する。
16:00 ～16:25	6 全体ふりかえり	45分	新潟大学 田村圭子 教授	本日の研修をふりかえる。お互いの気づきを共有し、理解を深める。
16:25 ～16:30	- おわりに	5分	(事務局)	

研修のテーマ 避難所開設・運営

オンデマンド講義：5/28（水）～6/25（水） 演習：6/26（木）集合形式 コーディネーター：田村委員

時間	単元名	実施内容	ふりかえり結果
10:00 ～10:05	オリエンテーション		
10:05 ～10:40	【講演】山梨県特有の災害の課題	甲府気象台から山梨県の地震災害の特徴として過去に発生した地震と被害、想定される地震の規模等の説明が行われた。	<p>● 概括 ●</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実際の避難所において、応援職員として避難所運営の訓練、県の災害対策本部を並行して実施したことで、実際の災害対応の業務がよりリアルに感じられた（県） 2. 能登半島地震の被災自治体の避難所対応の実際を聞きながら、訓練型演習を進めることで、より現実感をもって対応できた（県） 3. 県職員が、市町村に派遣されるという役割を担って、演習を行ったことで、市町村と同じ目線で検討し、学んだことを今後の県の対応に活かしていきたい（県） 4. 途中で動画を挟みながら進行という点では、チャレンジングな研修となった（内閣府） 5. 話題提供を行う気象台とは事前に協議の場をもった方がよかった（県）（コーディネーター）（内閣府） <p>● 運営 ●</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事務局が進行役を行ったが、県が進行役を担うことで、参加者に適格に情報を提供でき、時間の効率化を測ることができる（県）。 2. 被災市町村のインタビューが複数人相手となったため、音声の再現に課題があった。専門業者を導入するなど、対策が必要ではないか（コーディネーター） 3. 事務局の役割を事前に協議する必要がある（コーディネーター）
10:40 ～11:15	【演習+講義】本避難所に想定される災害	ハザードマップから地震の揺れやすさや危険度、土砂災害の危険など、避難所に想定される災害の説明が行われた。	
11:15 ～11:30	【講義】避難所運営業務と避難所設営	内閣府のガイドラインを元に避難所運営業務と避難所設営の基本的な事項をふまえ、現場での役立て方の説明が行われた。フェーズ①として、作戦会議で班内の役割分担を検討したうえで、本避難所の内部や周囲を受講者が調査し、気づいたことを図面等に書き出した。	
11:30 ～11:45	【見学】避難所想定施設の調査		
11:45 ～12:45	昼休み		
12:45 ～13:15	【演習】避難所開設・受入れ演習 フェーズ①レイアウト検討	避難所の立ち上げ前から撤収期までを次のフェーズにわけて演習を行った。 ・フェーズ① レイアウトの検討	
13:15 ～13:40	【演習】避難所開設・受入れ演習 フェーズ②立ち上がり期	・フェーズ② 立ち上がり期の課題（立ち上げ判断、受入れ時の対応） ・フェーズ② 継続期の課題（運営体制を見直し・立て直し）	
13:40 ～15:30	【演習】避難所開設・受入れ演習 フェーズ③継続期	・フェーズ③ 撤収期の課題（避難所の解消に向けた活動） また、実際に避難所運営を経験された氷見市職員のインタビュー動画を各フェーズに分けて紹介した。	
15:30 ～16:10	【演習】避難所開設・受入れ演習 フェーズ③撤収期		
16:10 ～16:15	全体ふりかえり	実際に避難所になる予定の体育館に移動し、レイアウトの確認を行ったうえで、本日の研修をふりかえり、各班1名が発表し全体に共有した。	
16:15 ～16:20	おわりに		

研修のテーマ 生活再建支援業務（住家被害認定調査、罹災証明書発行、被災者台帳の活用）

オンデマンド講義：6/13（金）～7/9（水） 演習：7/10（木）ハイブリッド コーディネーター：佐藤和委員（田村委員）

県の要望を元にカリキュラムを構成した。

●：受講必須 ◇：受講任意

No.1～No.3

昨年度に新潟県が独自で実施した研修の内容のうち、リアルタイム研修までに事前に学習してきてもらいたい内容を追加

No.2については、リアルタイム研修でも実施

No.4

生活再建支援業務に関係する平時の取組み事例のため追加

No.5-1～5-3

昨年度に新潟県が独自で実施した研修の内容のうち、リアルタイム研修までに事前に学習してきてもらいたい内容を追加

No.6～No.12

生活再建支援の担当職員向けに、災害救助法と被災者生活再建支援法および防災の基本が学べる単元を追加

概要	単元名/講師		時間
生活再建支援業務			
全体像 被害認定調査 事例（能登半島地震） 事例（平時の取組）	1	生活再建業務の全体像 新潟大学 田村圭子教授	● 30分
	2	住家の被害認定調査 インターリスク総研 (株)堀江啓氏	◇ 40分
	3	被災地の実際～富山県氷見市の事例～ 立命館大学 井ノ口宗成教授	◇ 15分
	4	生活再建支援業務の平時からの取組～豊島区の事例～ 東京都豊島区	◇ 10分
応援・受援の枠組み			
新潟県	5-1	チームにいがたの取組みについて (制度の概要)	● 5分
	5-2	チームにいがたの取組みについて (生活再建支援業務に係る支援)	● 15分
	5-3	チームにいがたの取組みについて (市町村における受援体制整備の必要性)	● 15分
全国	6	受援体制と受援計画の概要 内閣府	◇ 15分
被災者支援の法的根拠			
	7-1	災害救助法と被災者生活再建支援法 (災害救助法)	◇ 34分
	7-2	災害救助法と被災者生活再建支援法 (生活再建支援法)	
参考：自然災害の知識			
地域の脆弱性と被害の実態	8	自然災害による人的被害の実態	◇ 17分
	9	地域の災害特性	◇ 14分
	10	ハザードマップ	◇ 14分
	11	風水害の防災対策	◇ 18分
	12	我が国の水災害リスクと対策	◇ 19分

研修のテーマ 生活再建支援業務（住家被害認定調査、罹災証明書発行、被災者台帳の活用）

オンデマンド講義：6/13（金）～7/9（水） 演習：7/10（木）ハイブリッド コーディネーター：佐藤和委員（田村委員）

演習カリキュラムの検討

県からの次の要望を踏まえ、カリキュラムを検討した。

- ・昨年度に新潟県が実施した2日間の研修のうち、「生活再建支援業務」をテーマに、被害認定調査業務を中心とした研修を実施したい。

演習の実施に必要な基礎知識と、オンデマンド講義での事前学習の復習も兼ねて、生活再建支援業務の全体像と、住家被害認定調査の概要や調査方法等を学ぶ

模擬的に住家被害認定調査を体験できるよう、地震と水害の2パターンの被害を受けた住家の模型を各班1つ（オンライン参加者には自治体ごとに1つ）用意して実施する。演習では、模型の住家を見ながら、1次調査の調査票に実際に記入して被害を判定する方法を学ぶ

実際の災害時の被害規模と、その際にどのようなスケジュール・人数（班数）・役割分担等で被害認定調査が実施されていたのかを学ぶ

時間	単元	時間	講師	単元の概要
13:15 ～13:20	- 朝インテーク	5分	(事務局)	
13:20 ～13:35	1 【講義】 生活再建全体	15分	新潟大学 田村圭子 教授	生活再建支援業務の全体像を学ぶ。
13:35 ～14:15	2 【講義】 住家被害認定調査	40分	インターリス ク総研(株) 堀江啓 氏	以下を学ぶ。 ・被害認定調査の概要 ・地震に係る調査について ・水害に係る調査について ・被害認定調査の効率化の取組
14:15 ～15:45	3 【演習】建物調査演習 (地震・水害1次調査)	90分	新潟大学 田村圭子 教授 インターリス ク総研(株) 堀江啓 氏	模型を活用した調査演習を実施し、 ふりかえりを行う。
15:45 ～15:55	- 休憩	10分		
15:55 ～16:25	4 【事例】被災地の実際	30分	村上市	令和4年8月3日からの大雨における 対応事例を学ぶ
16:25 ～16:55		30分	新潟市	令和6年能登半島地震における対応 事例を学ぶ。
16:55 ～17:00	- 閉講	5分	(事務局)	

研修のテーマ 生活再建支援業務（住家被害認定調査、罹災証明書発行、被災者台帳の活用）

オンデマンド講義：6/13（金）～7/9（水） 演習：7/10（木） ハイブリッド コーディネーター：佐藤和委員（田村委員）

時間	単元	実施内容	ふりかえり結果
13:15 ～13:25	オリエンテーション		
13:25 ～13:40	【講義】 生活再建全体	生活再建支援業務の全体像と被災者台帳の構築の流れの説明のあと、R6能登半島地震時の氷見市で行われた住家被害認定調査の業務実施マネジメントの概要について説明が行われた。 	<p>● 概括 ●</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新潟方式を全国の標準形式として、東北ブロックや他地域にも広がっていくと良い。（コーディネーター、サブコーディネーター） 2. 模型の活用によりオンラインでも遜色ない成果が出たが。これは県のファシリテーターがいてこそ実現できた。（県）（コーディネーター）（内閣府） 3. 半日開催とオンライン参加の併用は、面積の広い地域の受講者が参加しやすく、半日という短時間でも密度の高い学びが得られるため有効。（内閣府） 4. 今回の入門編に加え、管理職等を対象としたマネジメント編など発展形を考える必要がある。受講者が段階的に力を伸ばせる仕組みも必要。（県）（コーディネーター）（ファシリテーター）（講師） 5. 今回のような研修は、実体験に基づく知見の共有の場として今後も必要である。（講師） <p>● 運営 ●</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 機材の構成をシンプルにする、事前に同じ環境でテストする、関係者で機材の配置等の認識を統一するなど、事務局体制や運営面を改善し、ハイブリッドのやり方を定型化する。（コーディネーター）（ファシリテーター）（事務局）
13:40 ～14:30	【講義】 住家被害認定調査	被害認定基準や住家の分類等、住家被害認定調査の概要を説明し、地震・水害それぞれの調査の流れ、調査票への記載方法、記載にあたってのポイント、能登半島地震で行われた遠隔判定等、被害認定調査の効率化の取組みの説明が行われた。 	
14:30 ～15:45	【演習】 建物調査演習 (地震・水害1次調査)	各班に配付された住家の模型を組み立て、壁を地震時の被害と水害時の被害に張り替えて、それぞれ実際に調査票に被害を書き込み被害判定を行う演習を実施した。演習後、ふりかえりを行い、各班1名が発表し全体に共有した。 	
15:45 ～15:55	休憩		
15:55 ～16:20	【事例】 被災地の実際	村上市は、令和4年8月3日からの大雨時、新潟市は、令和6年能登半島地震時の住家被害認定調査について、被害の概要、調査スケジュールや調査員・件数、調査拠点や調査時に行われた業務と発生した課題等の説明が行われた。 	
16:20 ～16:55			
16:55 ～17:00	閉講		

研修のテーマ 市町村災害対策本部が果たす役割と県・市町村の連携

オンデマンド講義：6/24（火）～ 7/23（水） 演習：7/24（木） 集合形式 コーディネーター：井ノ口委員

災害対策本部（初動対応）のカリキュラム（案）を基に、県の要望に合わせて次の点を変更した。

●：受講必須 ◇：受講任意

No.1～No.8-4

災害対策本部（初動対応）のカリキュラム（案）を採用
災害対応未経験者が視聴することを想定し、災害救助法等の基本が学べるNo.1～No.3を必須、No.4を任意に変更

No.9-1～No.11-2

リアルタイム研修の演習では水害を対象とすることから、風水害のメカニズムと土砂災害・風水害の警報と避難が学べる単元を追加

概要	単元名 / 講師	時間
災害対応業務全般		
防災行政の概要	1 防災行政概要 内閣府	● 20分
防災に関する法	2 災害法体系と災害対策基本法の概要 内閣府	● 15分
防災計画	3 防災計画の概要 内閣府	● 15分
災害概要	4 地域の災害特性 奈良地方気象台	◇ 60分
災害対策本部が行う対策立案プロセス		
対策立案プロセスの基本	5-1 災害対策本部の活動サイクル	● 15分
	5-2 当面の対応計画の策定	● 10分
	5-3 当面の対応計画策定のための災害対策本部での情報処理	● 15分
	5-4 災害対策本部会議の進め方	● 15分
指揮統制総論		
指揮統制	6-1 災害発生後に基礎自治体が行うべき業務の全体像を把握できる	◇ 5分
	6-2 世界標準に即した災害対応業務が5つの役割で構成されていることを理解できる	◇ 10分
	6-3 市町村が中心になって活躍する災害対応業務6+1を理解できる	● 10分
	6-4 平時の業務を世界標準に即して災害対応業務に変換することができる（ICS準拠）	◇ 5分
指揮統制の現状		
【事例】指揮統制	7-1 「令和2年7月豪雨」について熊本県人吉市松岡市長へのインタビュー	● 20分
	7-2 インタビューの解説	● 10分
参謀にとつての災害対策本部運営		
災害対策本部運営の基本	8-1 災害対策本部を指揮するとは	◇ 15分
	8-2 トップと参謀の役割	◇ 15分
	8-3 トップの意思決定・指揮を補佐する参謀機能の強化	◇ 15分
	8-4 情報処理と状況判断	◇ 15分
風水害		
風水害の概要	9-1 風水害のメカニズム	● 18分
	9-2 洪水災害の概要	◇ 17分
	9-3 土砂災害の概要	◇ 13分
地域の脆弱性と被害の実態		
風水害対応	10 風水害の防災対策	● 18分
警報避難		
【実務担当】警報避難	11-1 【実務担当】土砂災害における警報と避難	◇ 67分
	11-2 【実務担当】風水害における警報と避難	◇ 60分

研修のテーマ 市町村災害対策本部が果たす役割と県・市町村の連携

オンデマンド講義：6/24（火）～ 7/23（水） 演習：7/24（木） 集合形式 コーディネーター：井ノ口委員

演習カリキュラムの検討

県からの次の要望を踏まえ、カリキュラムを検討した。

- ・災害発生時に当事者として災害対応を行うことができるよう、市町村災害対策本部が果たすべき役割について市町村職員の理解を深めたい。
- ・県職員と市町村職員が演習を通じてそれぞれの役割や求められるニーズについて互いに理解を深め、県と市町村の連携体制の強化に繋げたい。

県の要望で、市町村や県リエゾンが経験談を読んで、実際にそういう立場に立った際にどういう行動をとるかを考える機会とする

風水害で災害対策本部に切り替わるぐらいのフェーズを対象とする。
安否確認、避難者対応、生活再建支援、災害ゴミ対応の業務について、状況見積もり、業務の対応方針検討、役割分担・体制検討、応援・受援調整、災対本部資料とりまとめを段階的に検討する

本日の演習をふりかえり受講者に発表してもらうことでお互いの気づきを共有し、理解を深める

時間	単元	分	講師	単元の概要
10:00 ～10:10	- 朝インテーク	10分	(事務局)	
10:10 ～12:00	【イングラフィック演習】 1 災害対応過程と態度を学ぶ	110分	サイエンスクラブ 瀧波崇	「平成29年九州北部豪雨時の大分県・日田市の災害対応の実態」のエスノグラフィーを題材に、県、市それぞれの立場からの災害対策本部設置前後の動きを学ぶ。
12:00 ～13:00	- 昼休み	60分		
13:00 ～15:50	2 【演習】 災害対策本部 における初動対応演習	170分	立命館大学 井ノ口宗成	風水害を対象に、災害発生前のわずかな情報からどんな課題があるか、どんな意思決定が必要かを検討する。最終的には災害対策本部会議で議論すべき事項や課題等を検討することで、災害発生前後に発生する業務をイメージし、発生する課題と対応等を学ぶ。
15:50 ～16:00	- 休憩	10分		
16:00 ～16:50	3 【演習】 ふりかえり	50分	立命館大学 井ノ口宗成	研修を通じて学び得たものを整理し、日頃からの「備え」につなげることを演習を通して学ぶ。
16:50 ～17:00	- 閉講	10分	(事務局)	

研修のテーマ 市町村災害対策本部が果たす役割と県・市町村の連携

オンデマンド講義：6/24（火）～ 7/23（水） 演習：7/24（木） 集合形式 コーディネーター：井ノ口委員

時間	単元	実施内容	ふりかえり結果
10:00 ～10:10	初エンターション		
10:10 ～12:05	【エスノグラフィ演習】 災害対応過程と態度 を学ぶ	平成29年九州北部豪雨時の大分県・日田市それぞれの職員の経験談を元に、活動上のポイント、参考にしたいことや課題・改善事項を班ごとに整理し、災害発生前後の活動や行政の対応の流れ、災害対応上の課題や活動上のポイントの理解を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●概括● 1. 1限目の演習は、初任者研修では有効だが、今回の研修で実施する必要があったか企画段階でもっと話し合いが必要だった（コーディネーター） 2. 2限目の演習のWS1は想定以上に盛り上がったが、テーマを絞ってもよかった。“顔の見える関係性”の構築につながった。（コーディネーター）（内閣府） 3. 3限目は、2限目の演習に時間がかかったため、急遽、発表していない市町村に発言してもらったりやり方に変更した。（コーディネーター） 4. 県リエゾンと市町村の双方を一堂に集めた研修は初めてでありよい機会だった。県リエゾンは、各自の特性を活かした議論が進み、今後のリエゾン派遣にも活かしていただけると感じた。（県） 5. 研修について受講者からは肯定的な意見が多く、真剣に考えてくれた受講者もあり、好評でよかった。（コーディネーター） 6. 動画視聴のみより、対面で多様な立場・経験に基づく意見交換ができ非常に有意義だった。また、専門的な人から初心者まで幅広い意見があり、どちらも好評で、県にとっても市町村の視点を学ぶ良い機会となった。（内閣府）
12:05 ～13:05	昼休み		
13:05 ～16:15	【演習】 災害対策本部における初動対応演習	導入（WS0）では、災害対策本部の位置づけや機能、災害救助法適用の重要性等の基本的な知識を学んだ。 演習では、奈良県内の様々な場所で水害や土砂災害が発生しうる状況にあるという前提のなか、ワークシートを用いて次の各段階で検討・決定すべき事項の理解を図った。 WS1 状況見積もり WS2 業務の対応方針検討 WS3 役割分担・体制検討 WS4 応援・受援調整 WS5 災对本部資料とりまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ●運営● 1. 事前準備・前日対応は、スムーズだった。前日17時入室、資料印刷、エスノグラフィ資料の配付方法など事前に打合せできてよかった。（県）（コーディネーター） 2. 研修当日の進行は、オリエンテーションがシンプルになり、演習で2～5分押しても司会がうまく収めてくれたため、全体的に問題はなかった（コーディネーター）
16:15 ～16:55	【演習】 ふりかえり	県・市町村ごとに演習後のふりかえり内容を発表し受講者全員に学びを共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> 3. 以降は演習資料をテンプレ活用で前倒しし、他工程に注力したい。加えて「コンサルティングシート」をより詳細化し、県・コーディネーター・事務局間のコミュニケーションをより密にして、調整・共有プロセスを見える化する必要がある。（コーディネーター）（内閣府） 4. 会場は機材面で扱いやすく、運営上の大きな問題はなかったが、交通の便や昼食等をもっと事前調整が必要だった。（内閣府）（事務局）
16:55 ～17:00	閉講		

研修のテーマ 救援物資の調達・輸配送

オンデマンド講義：7/3（木）～7/29（火） 演習：7/30（水）ハイブリッド コーディネーター：国崎委員

救援物資の調達・輸配送のカリキュラム（案）を
基に、県の要望等に合わせて次の点を変更した。

●：受講必須 ◇：受講任意

No.1～No.6、No.8～No.15

救援物資の調達・輸配送のカリキュラム（案）を
採用

No.6、No.8は、応援・受援に関する単元であり、
救援物資の調達・輸配送業務と関連はあるが、直
接影響を与える内容ではないため受講任意とする

No.7

物資と応援の関係や物資業務全体を学べる単元と
して受講任意で追加

No.16

熊本県知事が講師の単元のため受講任意で追加

概要	単元名 / 講師			時間
災害対応業務全般				
防災業務の全体像	1	防災行政概要	内閣府	◇ 20分
法体系	2	災害法体系と災害対策基本法の概要	内閣府	◇ 15分
災害救助法	3	災害救助法の概要	内閣府	◇ 15分
防災計画	4	防災計画の概要	内閣府	◇ 15分
地域特性	5	地域の災害特性	熊本 地方気象台	● 60分
応援・受援の基礎知識				
	6	受援体制と受援計画の概要	内閣府	◇ 15分
	7	応急活動・資源管理総論	防災科学技術 研究所 宇田川 真之	◇ 75分
	8	地方公共団体間の相互応援と受援体制	内閣府 総務省 大野城市	◇ 130分
救援物資の調達・輸配送				
	9	国としての物資の備蓄および災害時における物資の 調達・輸送	内閣府	● 15分
	10	救援物資の調達	コメリ災害 対策センター	● 35分
	11	救援物資の輸配送	佐川急便	● 30分
	12	救援物資ロジスティクス演習	内閣府	● 30分
避難所運営業務の基礎知識				
	13	避難所の開設・運営の内容	内閣府	◇ 15分
	14	多様な主体による避難所運営	内閣府	◇ 15分
	15	災害時における男女共同参画の視点からの取組の概要	内閣府	● 15分
応急対策				
	16	応急対策の実態	熊本県 木村 敬	◇ 60分

研修のテーマ 救援物資の調達・輸配送

オンデマンド講義：7/3（木）～7/29（火） 演習：7/30（水）ハイブリッド コーディネーター：国崎委員

演習カリキュラムの検討

県からの次の要望を踏まえ、カリキュラムを検討した。
 ・市町村間で災害時の物資輸送や拠点運営のための備えなどに意識の差があるため、県内市町村職員の知識の向上を図るとともに、演習を通して実際の動きを想定しながら学んでいただきたい。

国・自治体・民間の視点から、近年の災害における救援物資業務の実態や課題・教訓、課題等を踏まえた平時の取り組み、県・市町村に求められる役割を学ぶ。

救援物資業務の全体像や課題を講義で学び、演習を通じて、新物資システム(B-PLo)での物資要請、物資の配分計画、輸送手配、物資調達の方法を学ぶ。

救援物資業務について学んだことを踏まえ、救援物資業務の課題について検討し、意見交換することで救援物資業務への理解を深める。

研修全体をふりかえり、受講者に発表してもらうことでお互いの気づきを共有し、理解を深める

時間	単元	分	講師	単元の概要
10:00 ～10:05	- リンクセッション	5分	(事務局)	
10:05 ～10:35	1 【講義】 国としての課題認識	30分	内閣府	国の視点による過去災害時の救援物資業務に関する課題や教訓を学ぶ。
10:35 ～11:05	2 【講演】 事例から学ぶ救援物資の調達・輸配送の実態と課題 (自治体の視点)	30分	熊本県	自治体の視点による熊本地震時の救援物資業務の実態や課題、課題を踏まえた平時の取り組みを学ぶ。
11:05 ～11:15	- 休憩	10分		
11:15 ～11:55	3 【講演】 事例から学ぶ救援物資の調達・輸配送の実態と課題 (餅は餅屋に)	40分	Bosai Tech 大塚和典	民間の視点による過去災害時の救援物資業務の実態や課題、課題を踏まえた平時の取り組み、民間として県・市町村に求める役割を学ぶ。
11:55 ～12:55	- 昼休み	60分		
12:55 ～14:55	4 【演習】 救援物資の調達・輸配送演習	120分	内閣府	救援物資業務について、新物資システム(B-PLo)を用いて、救援物資業務における全体の流れを学ぶ。
14:55 ～15:05	- 休憩	10分		
15:05 ～16:05	5 【演習】 市町村の救援物資の調達・輸配送における課題の検討	60分	危機管理 教育研究所 国崎 信江	熊本地震や能登半島地震をはじめとする近年の災害における市町村の救援物資業務の課題についてグループで検討・意見交換する。多様な視点を共有することで今後の業務に活かす。
16:05 ～16:10	- 休憩	5分		
16:10 ～16:55	6 【演習】 全体討論 (ふりかえり)	45分	事務局	研修を通じて学び得たものを整理し、日頃からの「備え」につなげることを認識できる演習を実施する。
16:55 ～17:00	- 閉講	5分	(事務局)	

研修のテーマ 救援物資の調達・輸配送

オンデマンド講義：7/3（木）～7/29（火） 演習：7/30（水）ハイブリッド コーディネーター：国崎委員

時間	単元名	実施内容	ふりかえり結果
10:00 ～10:05	初エンゲージ		<p>●概要●</p> <ol style="list-style-type: none"> カリキュラムは概ね充実していたが、午前中にグループワークや意見交換等の交流の機会を増やしてほしい。（県）（内閣府） 午前中は国・自治体・民間の視点から、災害時の救援物資業務の実態や課題、平時の取組や自治体の役割を学び、午後はシステム演習と振り返りで知識を定着させることを想定した構成だったが、結果として午前中にグループでの話し合いの時間が取れなかった。（コーディネーター） 午前の講義で実災害の課題や危機感を持った上で実際に物資システムの操作演習ができたことは有意義だった。しかし、一部手持無沙汰の受講者が生じた。（県）（コーディネーター） 事前にオンデマンドの「救援物資ロジスティクス演習」の受講を想定していたが未受講者が多かった。事前に研修で使用することを周知したうえで受講を促す必要があった。（県）（内閣府） 演習時に有識者からのコメントの機会が設けられると学びが深まる。（県） 5限目の演習について、物資は備蓄・調達・配送等要素が多いため、非担当には難度が高い。対象に応じた設計が必要。また、内容に対して60分は短く、ハイブリッドでの進行が難しかった。（県）（コーディネーター） ワークシートは、必要事項が整理され、研修後に持ち帰り活用が見込める構成だった。（県）（内閣府）（事務局） 5限目と重複しないよう6限目は工夫が必要だった（内閣府） <p>●運営●</p> <ol style="list-style-type: none"> 当日までに1度、研修についての打ち合わせが必要（県）（内閣府） 会場の時間制約で前日設営ができないなど準備が難しかった。（県） 受講者の大半はPCが持参でき（貸出4台）、ポケットWi-Fi等ハイブリッド対応の資機材など事務局の機材持ち込み・運営支援は助かった。（県）（コーディネーター） グループワークが無い講義のみの場合の配席は、班形式よりスクール形式の方が受講しやすい。（県） 受講者の主体的な参加が難しいため「各市町村1名以上」等の参加要件が必要だった。（県）
10:05 ～10:35	【講義】国としての課題認識	国の視点として内閣府より令和6年能登半島地震での救援物資業務の実態と課題等の説明が行われた。 	
10:35 ～11:05	【講演】事例から学ぶ救援物資の調達・輸配送の実態と課題（自治体の視点）	自治体の視点として熊本県より、平成28年熊本地震時の益城町で行われた救援物資業務の内容と課題について話題提供が行われた。 	
11:06 ～11:15	休憩		
11:15 ～11:55	【講演】事例から学ぶ救援物資の調達・輸配送の実態と課題（餅は餅屋に）	民間企業の視点として、平成28年熊本地震および令和6年能登半島地震での救援物資業務の実態と課題や民間の活用方法について話題提供が行われた。 	
11:55 ～12:55	昼休み		
12:55 ～14:55	【演習】救援物資の調達・輸配送演習	救援物資業務の全体像や課題、新物資システム(B-PLo)の概要や基本操作の説明が行われた。演習では、新物資システム(B-PLo)を使って避難所から市町村への物資要請、物資の配分計画、県・物資拠点・避難所間の輸送手配、市町村から県への物資調達の方法の理解を図った。 	
14:55 ～15:05	休憩		
15:05 ～16:20	【演習】市町村の救援物資の調達・輸配送における課題の検討	「物資支援業務“ふりかえり”課題整理シート」を使って物資業務の課題への対応を検討し、班ごとに検討結果の共有と意見交換を行った。 	
16:20 ～16:25	休憩		
16:25 ～17:00	【演習】全体討論（ふりかえり）	自分の業務に活かしたいこと、やってみたいことをふりかえって整理し、受講者全体に学びを共有した。	
17:00 ～17:05	閉講		

研修のテーマ 災害時の応援・受援

オンデマンド講義：8/12（火）～9/10（水） 演習：9/11（木） 集合形式 コーディネーター：国崎委員

応援・受援のカリキュラム（案）を基に、県の要望等に合わせて次の点を変更した。

●：受講必須 ◇：受講任意

No.1～No.3

応援・受援のカリキュラム（案）を採用

No.4～No.7

演習で実施する大雨災害のエスノグラフィー演習への理解を深めるために、警報避難に関する内容を学べるよう単元を追加

No.8～No.18

応援・受援のカリキュラム（案）を採用

No.19

演習当日に対面で講義することとなったため、オンデマンド講義から除外

概要	単元名／講師			時間
災害対応業務全般				
防災業務の全体像	1	防災行政概要	内閣府	◇ 20分
法体系	2	災害法体系と災害対策基本法の概要	内閣府	◇ 15分
防災計画	3	防災計画の概要	内閣府	◇ 15分
災害から命を守る				
	4	「避難情報に関するガイドライン」の経緯	静岡大学 牛山 素行	◇ 15分
	5	避難行動の概要	静岡大学 牛山 素行	◇ 20分
	6	防災気象情報の概要	気象庁	◇ 15分
	7	避難情報の発令判断・伝達等	内閣府	◇ 15分
応援・受援の基礎知識				
	8	受援体制と受援計画の概要	内閣府	● 15分
	9	地方公共団体間の相互応援と受援体制	内閣府 総務省 大野城市	● 130分
受援対象業務の概要				
	10	避難所の開設・運営の内容	内閣府	● 15分
	11	災害廃棄物処理の概要	環境省	● 11分
	12	被害認定調査・罹災証明書の概要	内閣府	● 6分
	13	インフラ復旧の概要	国土交通省	◇ 15分
	14	災害ケースマネジメントの概要	内閣府	◇ 16分
物資の調達・輸配送				
国視点	15	国としての物資の備蓄および災害時における物資の調達・輸送	内閣府	◇ 15分
民間視点	16	救援物資の調達	コメリ災害 対策センター	◇ 35分
	17	救援物資の輸配送	佐川急便	◇ 30分
新物資システムの 操作演習	18	救援物資ロジスティクス演習	内閣府	◇ 30分
除外した単元	19	地域の災害特性	長崎 地方気象台	● 60分

研修のテーマ 災害時の応援・受援

オンデマンド講義：8/12（火）～9/10（水） 演習：9/11（木）集合形式 コーディネーター：国崎委員

演習カリキュラムの検討

県からの次の要望を踏まえ、カリキュラムを検討した。
・研修の受講が書く市町村の受援計画の見直しのきっかけになるとよい。

演習の導入として、地方気象台から地域特性について学ぶ

2つのエスノグラフィー演習を通じて、大雨災害時と能登半島地震への応援派遣時の業務の実態と課題を学ぶ

4限目の演習を通じて、自組織の受援計画の充実・強化すべき事項を把握し、5限目で受援計画の最新の改訂ポイントを学んだうえで、自組織の受援計画の充実・強化するための質疑応答を行う

他自治体の取組みの成果物を通じて、受援計画の強化・充実のための新たな気づきを得ていただく

研修全体をふりかえり、受講者に発表してもらおうことでお互いの気づきを共有し、理解を深める

時間	単元	分	講師	単元の概要
09:30 ～09:35	- 朝インテーク	5分	(事務局)	
09:35 ～10:05	1 【講義】 地域の災害特性	30分	長崎 地方気象台	地域の災害特性（地域の脆弱性含む）、想定される被害状況とその発生メカニズムを学ぶ。
10:05 ～11:05	2 【エスノグラフィー演習1】大 雨時の対応の実態と課題	60分	サイエンスクラブ 瀧波 崇	平成29年7月九州北部豪雨を経験した大分県職員および日田市職員の体験談（エスノグラフィー）を教材に、災害発生前後の活動を確認し、行政の対応の流れや災害対応上の課題、活動上のポイントを学ぶ。
11:05 ～11:15	- 休憩	10分		
11:15 ～12:15	3 【エスノグラフィー演習2】応 援・受援の実態と課題	60分	サイエンスクラブ 瀧波 崇	令和6年能登半島地震に応援派遣された三重県いなべ市の職員の体験談（エスノグラフィー）を教材に、応援派遣された職員の視点から応援側・受援側の対応の流れや課題、活動上のポイントを学ぶ。
12:15 ～13:15	- お昼休み	60分		
13:15 ～14:05	4 【演習】応援受け入れに あたっての課題と必要な 準備を考える	50分	サイエンスクラブ 元谷 豊	災害時を想定し受援要請から応援受け入れ時に取り組むべき活動について検討するとともに、受援計画の内容強化・充実化をはかるうえで、必要な取り組みについて考える。
14:05 ～14:40	5 【講義+質疑応答】市町 村のための人的応援の受 入れに関する受援計画の 手引き	35分	内閣府	演習によって得られた気づきを具体的にどのように受援計画に落とししていくのかを学ぶ。
14:40 ～14:45	- 休憩	5分		
14:45 ～15:45	6 【講義】 効果的な対応と応援受け 入れを実現するための事前 の取組み	60分	危機管理 教育研究所 国崎 信江	災害発生前後から応援受け入れの実効性を確保するために必要な検討や取り組み（必要な応援を検討する手法）とポイントとなる事項を学ぶ。
15:45 ～15:50	- 休憩	5分		
15:50 ～16:35	7 【演習】 全体討論（ふりかえり）	45分	事務局	研修を通じて学び得たものを整理し、日頃からの「備え」につなげることを演習を通して学ぶ。
16:35 ～16:45	- 閉講	10分	(事務局)	

研修のテーマ 災害時の応援・受援

オンデマンド講義：8/12（火）～ 9/10（水） 演習：9/11（木） 集合形式 コーディネーター：国崎委員

時間	単元名	実施内容	ふりかえり結果
09:30 ～09:40	オリエンテーション		
09:40 ～10:05	【講義】 地域の災害特性	長崎地方気象台から県の地勢と気候、過去・近年の災害事例、近年の大雨と台風の特徴、新しい防災気象情報について講義が行われた。 	<p>● 概括 ●</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 県の意向を汲んだカリキュラムだった。事前にオンデマンドを受講し、自組織の受援計画を確認してから受講したことで、より理解の深まりがある研修になった。また、研修での意見交換や他自治体の発表から受援計画に見直しにかかる気づき生まれ、研修を通じて受援計画作成の必要性の理解が深まった。（県） 2. 午前は講義から始まったがグループワークを交えていたため、研修全体としてバランスが良かった。（内閣府） 3. 研修を実施し、5限目の手引きの講義→6限目の実態の講義→4限目の演習の順にすると、より具体的に記載でき、ワークシートを有効活用できたかもしれない。（コーディネーター） 4. 自組織の災害対応への考えがあつての受援計画であり、そこに結び付けられる助言ができるとよかった。手引きの改定に加えたい。（内閣府） 5. 発表に対する講師・コーディネーターのコメントがあると、解決策が具体化し、今後も含めた受講者と講師のつながりができたのではない。（県）（事務局） 6. 離島が多く参加は21中約10自治体に留まった。対面に参加できない離島や小規模自治体向けに長期で受講可能な仕組みがあるとよい。（県） 7. エスノグラフィーの体験談で“我が事化”はできたが、意見交換が感想止まりで、計画改善を目的とした意見交換にならなかった。議論を誘導する、受援側の教材を選ぶなど検討・改善が必要。（コーディネーター） 8. 模造紙による他自治体事例の提示は、発災時に防災部局以外も含む全庁的対応が必要になることが大変分かりやすく、「他部局に考えてもらい落とし込む」方法は非常に参考になる。県内市町のどこかでモデル的に実施し、常設展示してはどうか。（コーディネーター）（内閣府） <p>● 運営 ●</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受援は引き続き優先度が高いテーマ。参加対象は防災以外の人事・総務・振興局等へも広げたい。（県） 2. 議会日程との競合で参加が伸び悩んだ。（県） 3. 資料確認が直前になり十分なレビューが難しかった。地域検討会を2回から3回に増やし、最終確認ができる機会があるとよかった。（県）
10:05 ～11:05	【エスノグラフィー演習 1】大雨時の対応の 実態と課題	平成29年九州北部豪雨時の大分県・日田市それぞれの職員の経験談を元に、災害発生前後の活動や対応の流れ、災害対応上の課題や活動上のポイントの理解を図った。 	
11:05 ～11:15	休憩		
11:15 ～12:15	【エスノグラフィー演習 2】応援・受援の実 態と課題	令和6年能登半島地震にて石川県輪島市の災害対応支援を行った職員の経験談を元に、災害発生前後の活動や行政の対応の流れ、災害対応上の課題や活動上のポイントの理解を図った。 	
12:15 ～13:15	お昼休み		
13:15 ～14:05	【演習】応援受け入 れにあたっての課題と 必要な準備を考える	自組織の受援計画を参照しながら、受援対象業務、担当部署、要請先、各受援対象業務を行ううえで必要な執務スペース等を検討し、受援計画の充実・強化すべきを把握した。 	
14:05 ～14:30	【講義＋質疑応答】 市町村のための人的 応援の受入れに関す る受援計画の手引き	内閣府の受年計画作成の手引きについて令和7年4月の改訂ポイントの講義が行われた後、自組織の受援計画を充実・強化するにあたっての質疑応答が行われた。 	
14:30 ～14:45	【事例紹介】茨城県 利根町職員研修	受援計画の強化・充実のための具体的な取組みとして他自治体の取組みの成果（模造紙の整理結果）を閲覧してもらい、受講者に新たな気づきを得てもらった。 	
14:45 ～14:55	休憩		
14:55 ～15:45	【講義】 効果的な対応と応援 受入れを実現するた めの事前の取組み	また、これまでの講義で検証・整理された各市町村の課題に対し、必要な準備の方法としてどの時点でどれだけの応援が必要なのかを予め把握しておくための手法、応援職員に業務を伝えるための効果的な手段を紹介し、災害発生前後から応援受入れまでの業務の課題とポイントの理解を図った。 	
15:45 ～16:25	【演習】全体討論 (ふりかえり)	「自分の業務に活かしたいこと、やってみようこと」を班ごとに検討し、自分の班で最も良かった意見1つ発表し、全体に共有した。 	
16:25 ～16:30	閉講		

研修のテーマ 受援体制（応援職員・支援物資の受入、受援計画、被災地支援等）

オンデマンド講義：7/7（月）～8/5（火） 演習：8/6（水） 集合形式 コーディネーター：越山委員

応援・受援のカリキュラム（案）を基に、県の要望等に合わせて次の点を変更した。

●：受講必須 ◇：受講任意

No.1～No.10
応援・受援のカリキュラム（案）を採用

No.11～No.13-2
福祉部局等、防災部局以外も受講対象とすることから、被災者支援業務についても学べるよう単元を追加

No.14～No.15
応援・受援のカリキュラム（案）を採用

No.16～No.18
受講者の受講負担を減らすこと、物的応援の単元であることからオンデマンド講義から除外

概要	単元名 / 講師			時間
災害対応業務全般				
防災業務の全体像	1	防災行政概要	内閣府	◇ 20分
法体系	2	災害法体系と災害対策基本法の概要	内閣府	◇ 15分
防災計画	3	防災計画の概要	内閣府	◇ 15分
地域特性	4	地域の災害特性	熊本 地方気象台	● 60分
応援・受援の基礎知識				
	5	受援体制と受援計画の概要	内閣府	● 15分
	6	地方公共団体間の相互応援と受援体制	内閣府 総務省 大野城市	● 130分
受援対象業務の概要				
	7	避難所の開設・運営の内容	内閣府	● 15分
	8	災害廃棄物処理の概要	環境省	● 11分
	9	被害認定調査・罹災証明書の概要	内閣府	● 6分
	10	災害ケースマネジメントの概要	内閣府	● 16分
	11	仮設住宅の供給の概要	内閣府	● 15分
	12	災害ボランティア	東北大学 丸谷浩明 スキーストックヤード 栗田 暢之	● 36分
	13-1	被災者生活再建支援制度の概要	内閣府	● 11分
	13-2	災害弔慰金・災害援護資金の概要	内閣府	● 14分
物資の調達・輸配送				
	14	国としての物資の備蓄および災害時における物資の調達・輸送	内閣府	◇ 15分
	15	救援物資ロジスティクス演習	内閣府	◇ 30分
除外した単元	16	インフラ復旧の概要	国土交通省	◇ 15分
	17	救援物資の調達	コメリ災害 対策センター	● 35分
	18	救援物資の輸配送	佐川急便	● 30分

研修のテーマ 受援体制（応援職員・支援物資の受入、受援計画、被災地支援等）

オンデマンド講義：7/7（月）～8/5（火） 演習：8/6（水） 集合形式 コーディネーター：越山委員

演習カリキュラムの検討

県からの次の要望を踏まえ、カリキュラムを検討した。

- ・南海トラフ地震など大規模災害の発生に備え、応援・受援時に発生する業務内容や、そのための体制構築について、講義で学び、演習により習熟を高めたい。

受援と応援それぞれの災害対応経験者から、実体験を踏まえた受援・応援業務の実態と課題を学ぶ。
講義を通じて、経験談や業務に対する受講者からの質問に回答することで、業務等への理解を深める。

災害時の応援経験者の体験談を通じて、班ごとに知見・教訓を整理し、災害発生前後の活動を確認し、行政の対応の流れや災害対応上の課題、活動上のポイントを学ぶ。

南海トラフ地震発生後の状況をふまえ、応援要請時に必要な事項、応援受入れ時に必要な事項をそれぞれ検討し、市町村の役割と県の役割を学ぶ。

研修全体をふりかえり、受講者に発表してもらうことでお互いの気づきを共有し、理解を深める

時間	単元	分	講師	単元の概要
10:00 ～10:05	- 朝インテーク	10分	(事務局)	
10:05 ～10:35	【講演】 1 事例から学ぶ受援の実態と課題	30分	奥能登広域 圏事務組合 佐藤令	災害時の受援を経験した自治体職員の実体験を踏まえた講演を通じて、受援の実態と課題を学ぶ。
10:35 ～11:05	【講演】 2 事例から学ぶ応援の実態と課題	30分	愛知県	災害時の応援を経験した自治体職員の実体験を踏まえた講演を通じて、応援の実態と課題を学ぶ。
11:05 ～11:15	- 休憩	10分		
11:15 ～11:45	3 質疑応答	30分	関西大学 越山健治	講演への質疑応答を通じて、応援・受援の課題や対応策、取り組みへの理解を深める。
11:45 ～12:45	- 昼休み	60分		
12:45 ～14:00	4 【イングラフィック演習】 災害対応過程と態度を学ぶ	75分	サイエンスクラフト 瀧波崇	災害時の応援を経験した自治体職員の実体験談を教材として読み込み、教材から読み取った知見・教訓をグループワークで整理することで、災害発生前後の活動を確認し、行政の対応の流れや災害対応上の課題、活動上のポイントを学ぶ。
14:00 ～14:10	- 休憩	10分		
14:10 ～15:35	【演習】 5 受援業務における 初動対応演習	85分	サイエンスクラフト 元谷豊	災害発生初動期の応援要請と応援受入れのそれぞれの状況で検討する演習を通じて、応援要請や応援受入れ時の市町村の役割と、市町村による応援要請における県の役割を学ぶ。
15:35 ～15:40	- 休憩	5分		
15:40 ～16:25	【演習】 6 全体討論（ふりかえり）	45分	事務局	研修を通じて学び得たものを整理し、日頃からの「備え」につなげることを演習を通して学ぶ。
16:25 ～16:30	- 閉講	10分	(事務局)	

研修のテーマ 受援体制（応援職員・支援物資の受入、受援計画、被災地支援等）

オンデマンド講義：7/7（月）～8/5（火） 演習：8/6（水） 集合形式 コーディネーター：越山委員

時間	単元名	実施内容	ふりかえり結果
10:00 ～10:05	オリエンテーション		
10:05 ～10:35	【講演】 事例から学ぶ受援の 実態と課題	受援側の視点として奥能登広域圏事務組合より、令和6年能登半島地震での輪島市における受援体制の実態や課題と改善案等の講演が行われた。	<p>●概要●</p> <ol style="list-style-type: none"> 全体として多岐にわたり詰め込みすぎのため、限られた時間に合わせテーマを絞る必要があった。（コーディネーター）（内閣府） オンデマンド講義とリアルタイム研修のインタラクションを入れることで受講者は理解が連動し、未受講者への動機づけになるのではないか（コーディネーター） オンデマンド講義の地方気象台の講義は県の気象理解に有効。（県） オンデマンド講義（必須4.7時間）が長すぎるとの苦情は特段なし。現場に近い資料で理解しやすかったとの評価。一方で、内容に古いものがあり、最新の制度・議論の更新点を示す仕組み（注意書き・補遺等）の整備が望ましい。（県）（コーディネーター） 和歌山ならではの地域特性を組み込み、ロールプレイやアウトプットに県の地域性が表れる設計にするとよかった。（コーディネーター） 市町村が主対象のため、災害対応経験者の講話は大きな示唆があった。講演の時間配分を拡充する、2人の講演内容の時系列を合わせる等の改善点はあるが受講者側の理解は進んだ。（県） 講師陣に加え、自衛隊・海保など平時接点の少ない層と交流が進んだ。庁内でも防災部局に限らず幅広い課から参加し、林道活用など多面的なアイデアが生まれた。名刺交換を促すアナウンスも有効で、継続実施が望まれる。（県）（内閣府）（事務局） <p>●運営●</p> <ol style="list-style-type: none"> 内閣府からの募集段階で会場に必要な要件の明示が必要。（県） 事務局から県への各種依頼の前倒しが必要。また、事務局が運営を担ったため、県側が“運営を学ぶ”機会が限られた。全体像を共有し、同時並行で進めて検討の時間を確保する必要がある（県） コーディネーターの会場入り時刻など具体情報の共有が遅れた。県・コーディネーター・事務局で、時間に余裕をもって事前に合意・共有したい。（コーディネーター）（事務局）（内閣府） コーディネーターの役割を、当日のゲストなど軽めか、企画段階から関わるか等見直しが必要。（コーディネーター） 受講者に事前課題がある場合は、外的要因があっても読み込めるよう、時間に余裕をもって配布する。（事務局）
10:35 ～11:05	【講演】 事例から学ぶ応援の 実態と課題	応援側の視点として愛知県より、令和6年能登半島地震の志賀町への応援時の支援内容、支援を通じた気づき等について講演が行われた。	
11:05 ～11:15	休憩		
11:15 ～11:50	質疑応答	講演内容や受援応援について、受講者から質問を募り、講師に回答いただくことで受援応援業務への理解を深めた。	
11:50 ～12:50	昼休み		
12:50 ～13:55	【インクワイアリー演習】 災害対応過程と態度を 学ぶ	令和6年能登半島地震にて石川県輪島市の災害対応支援を行った職員の経験談を元に、活動上のポイントや課題等を班ごとに整理し、災害発生前後の活動や行政の対応の流れ、災害対応上の課題や活動上のポイントの理解を図った。	
13:55 ～14:05	休憩		
14:05 ～15:40	【演習】 受援業務における 初動対応演習	南海トラフ地震が発生し沿岸部には津波が到達したという状況で、災害対策本部等の設置場所や応援要請が必要な業務、応援受入れに必要な準備を検討し、応援要請や受入れに至る活動の流れと市町村の役割、必要な準備への理解を図った。	
15:40 ～15:45	休憩		
15:45 ～16:40	【演習】 全体討論 (ふりかえり)	研修を受講したのら、研修での気づき・学び、持ち帰って自分の組織や業務に活かしていきたいことをふりかえって整理し、受講者全体に学びを共有した。	
16:40 ～16:50	閉講		

研修のテーマ 応援・受援

オンデマンド講義：7/24（木）～ 8/21（木） 演習：8/22（金）ハイブリッド コーディネーター：佐藤翔委員（丸谷浩明）

応援・受援のカリキュラム（案）を基に、県の要望等に合わせて次の点を変更した。

●：受講必須 ◇：受講任意

No.1～No.4

応援・受援のカリキュラム（案）を採用

No.5

受援を学ぶにあたりBCPの考え方も知っておく必要があることから受講必須で単元を追加

No.6～No.15

応援・受援のカリキュラム（案）を採用

No.10のインフラ復旧は、災害査定のための人的応援を受ける業務であり、土木部局だけでは完了しないことから受講必須に変更

No.16

No.6の単元の内容と重複する部分があることからオンデマンド講義から除外

概要	単元名 / 講師			時間
災害対応業務全般				
防災業務の全体像 法体系 防災計画 地域特性	1	防災行政概要	内閣府	◇ 20分
	2	災害法体系と災害対策基本法の概要	内閣府	◇ 15分
	3	防災計画の概要	内閣府	◇ 15分
	4	地域の災害特性	福島 地方気象台	● 60分
BCP				
	5	行政のBCP、BCM	東北大学 丸谷浩明	● 50分
応援・受援の基礎知識				
	6	地方公共団体間の相互応援と受援体制	内閣府 総務省 大野城市	● 130分
受援対象業務の概要				
	7	避難所の開設・運営の内容	内閣府	● 15分
	8	災害廃棄物処理の概要	環境省	● 11分
	9	被害認定調査・罹災証明書の概要	内閣府	● 6分
	10	インフラ復旧の概要	国土交通省	● 15分
	11	災害ケースマネジメントの概要	内閣府	◇ 16分
物資の調達・輸配送				
国視点	12	国としての物資の備蓄および災害時における物資の調達・輸送	内閣府	◇ 15分
民間視点	13	救援物資の調達	コメリ災害 対策センター	◇ 35分
	14	救援物資の輸配送	佐川急便	◇ 30分
新物資システムの操作演習	15	救援物資ロジスティクス演習	内閣府	◇ 30分
除外した単元	16	受援体制と受援計画の概要	内閣府	● 15分

研修のテーマ 応援・受援

オンデマンド講義：7/24（木）～8/21（木） 演習：8/22（金）ハイブリッド コーディネーター：佐藤翔委員（丸谷浩明）

演習カリキュラムの検討

県からの次の要望を踏まえ、カリキュラムを検討した。
 ・市町村の参加者が受援計画の必要性を理解し計画策定に着手するきっかけになる研修にしたい。

受援と応援それぞれの災害対応経験者から、実体験を踏まえた受援・応援業務の実態と課題を学ぶ。
 講演中に、受援計画のポイントとして学んだことをワークシートに書き出す。また、講演ごとに質疑応答を行い、受講者の理解を深める。

福島県が作成した市町村向けの受援計画ひながたについて学び、受援計画についておさらいしてもらう。
 1・2限目で学んだことや書き出したポイントと合わせて自組織の受援計画に反映し、グループ内で共有する。

会場・オンライン全体で、受援計画を作成・修正したうえで新たな疑問・悩みを相談・討論する。

研修全体をふりかえり、受講者に発表してもらうことでお互いの気づきを共有し、理解を深める

時間	単元	分	講師	単元の概要
09:30 ～09:40	- 朝インテーク	10分	(事務局)	
09:40 ～10:45	【講演】 1 事例から学ぶ受援と応援の実態と課題	65分	福島県	災害時の受援および応援を経験した自治体職員の実体験を踏まえた講演を通じて、受援・応援の実態と課題を学ぶ。
10:45 ～10:55	- 休憩	10分		
10:55 ～12:00	【講演】 2 事例から学ぶ応援の実態と課題	65分	新潟県	災害時の応援を経験した自治体職員の実体験を踏まえた講演を通じて、応援の実態と課題を学ぶ。
12:00 ～13:00	- 昼休み	60分		
13:00 ～14:40	【演習】 3 受援計画作成演習その①	100分	福島県 東北大学 佐藤翔輔	災害時の応援を経験した自治体職員の実体験から得た知見・教訓をグループワークで整理することで、災害発生前後の活動を確認し、行政の対応の流れや災害対応上の課題、活動上のポイントを学ぶ。
14:40 ～14:50	- 休憩	10分		
14:50 ～15:50	【演習】 4 受援計画作成演習その②	60分	東北大学 佐藤翔輔 丸谷浩明	1・2限目の講演および3限目の演習で得た学びを受援計画に落とし込んでうえで質疑応答を行い、受援計画策定のポイントを学ぶ。
15:50 ～16:00	- 休憩	10分		
16:00 ～16:40	【演習】 5 ふりかえり	40分	事務局	研修を通じて学び得たものを整理し、日頃からの「備え」につなげることを演習を通して学ぶ。
16:40 ～16:50	- 閉講	10分	(事務局)	

研修のテーマ 応援・受援

オンデマンド講義：7/24（木）～8/21（木） 演習：8/22（金）ハイブリッド コーディネーター：佐藤委員（丸谷浩明）

時間	単元名	実施内容	ふりかえり結果
09:30 ～09:40	オリエンテーション		<p>●概括●</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受援計画未策定自治体が計画作成の第一歩を踏み出すという目的は達成。演習中の質問から受援の理解が進んでいることがうかがえ、受講者に何かしら持ち帰ってもらえたと感じた。しかし、受援計画策定が進まない原因が解消されたかは、今後の市町村の進展を確認したい。（県） 2. 受講者の盛り上がり確認でき、よい研修だと感じた。（内閣府） 3. 開催県＋熟練県の体験講話は内容・バランスとも良かったが、受講者層から市町村の体験講話は必須だった。また、講話の実務のコツ・ポイントと、受援計画の整合が弱かった。（コーディネーター） 4. 一般的に持ち帰り作業になりがちな受援計画の作成・修正部分を研修中に取り組めたことは効果的だった。PC持参も問題なく効果的に使用されていた。修正の進行程度は成果物から要検証。（コーディネーター） 5. 個人ワーク（受援計画の修正・作成）は意図の伝達不足で作業レベルがばらついたため、作業内容や項目の指示を絞り込む必要がある。また、ひな形の事前読み込みやオンライン参加者の聴講状況が不明という問題がある。（サブコーディネーター） 6. 受講者からの疑問に対し、国の事例集・マニュアルに基づく回答を事前に用意しておく必要があった。（事務局） 7. 市町村を「策定／未策定」で班分けしたのは有効。一方で県受講者は、研修内容に即して参加を促すべきだった。（県） 8. 名刺交換・声掛けなど対面研修の効果が顕著で、オンラインでも後半のグループワークでは打ち解け合っており効果が見られた。（県） <p>●運営●</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 県の要望を汲み取った企画づくりはありがたく、企画から当日運営の一連の流れを経験することで新しい研修のやり方を学べた。（県） 2. 事務局支援のもと、会場準備～当日運営はスムーズだった。（県） 3. オンライン側のグループワークでファシリテーターに負担が集中した。人数や対応の流れを改善する必要がある。（内閣府）（事務局） 4. フォローアップの具体化（実装指針） 5. 県は市町村へのフォローアップとして受援計画策定の具体的な取り組みやポイントを示す必要がある。「実際の受援」を支える手引き・マニュアルを整備するとよい。（コーディネーター）（サブコーディネーター） 6. 開催自治体同士のオブザーバー参加は研修開催するうえでの学びにつながるため、今後も機会拡大が望ましい。（事務局）
09:40 ～10:45	【講演】 事例から学ぶ受援と 応援の実態と課題	福島県より、受援時の教訓と経験を活かした応援体制の整備、令和6年能登半島地震の応援時の活動内容と課題等について講演が行われた。 	
10:45 ～10:55	休憩		
10:55 ～12:05	【講演】 事例から学ぶ応援の 実態と課題	新潟県より、「チームにいがた」の枠組みや活動、福島県等への応援時の活動内容と課題等について講演が行われた。 	
12:05 ～13:05	昼休み		
13:05 ～14:45	【演習】 受援計画作成演習 その①	福島県より、福島県内市町村用の受援計画ひな形の説明が行われた。自組織の受援計画の記載を確認し、午前中の講演での学びを元に記載を充実させ、グループ内で受援計画の改善箇所の共有を図った。 	
14:45 ～14:55	休憩		
14:55 ～15:55	【演習】 受援計画作成演習 その②	受援計画へ実際に反映したことで生じた疑問や相談事項への質疑応答を会場全体で行い、講師等からの回答を通じて、受援計画作成・改善のポイントへの理解を深めた。 	
15:55 ～16:05	休憩		
16:05 ～16:50	【演習】 ふりかえり	自分の業務に活かしたいこと、やってみたいことをふりかえって整理し、受講者全体に学びを共有した。 	
16:50 ～16:55	閉講		